

(1日目) 11月7日(水)
午前の部「新しいアジアと日米同盟」
基調講演
キム・ホームズ ヘリテージ財団 副会長

瓦会長、最初に、米国にとって極めて重要な問題を著名な方々と共に議論するため、ここに私がいることは、私の誇りであると言わせてください。

率直に申し上げて、私がお説明できるであろう、日米同盟の要素はたくさんあります。しかし、焦点を、私たちが注目するに値する3つの分野に焦点をあてさせていただきます。

最初に、私はこの同盟はアジアの安定の基盤であると信じております。今日の、脅威が取り巻く環境において、そして、ある種の課題がこの同盟には存在するということを認識し、強い同盟関係を保つことは最も重要であります。

疑い無く、日本は信頼されている同盟国です。私たちの国々は、平和と安定へのコミットメントを共有しているだけでなく、民主主義の原則と価値への深いコミットメント、そして政治的、経済的な自由がアジア全土に広まるのを見たいとの望みも共有しています。そして、この地域の、他の国とは違って、日本は、グローバルな社会の責任ある一員として行動しようと努めています。

私の主張を明らかにするいくつかの例として：

- 9.11のすぐ後、不朽の自由作戦を、給油と海上阻止活動で支援するため、海上自衛隊をインド洋に派遣しました。この任務が、ちょうど今終わりを迎えたことは問題ですが、それでも私はありがたく思っています。
- 日本は、連合軍の人員と必需品をクエートからイラクへと運び続けています。陸上自衛隊はイラクの復興に、協力をしました。
- 日本の部隊は、アジアの津波の後、人道支援を行うため、我々と足並みを揃えて取り組みました。
- 拡散に対する安全保障構想 (the Proliferation Security Initiative) においてよきパートナーである日本は、先般の演習を主催しました。
- そしてもちろん、日本はこの重要な地域における、ミサイル防衛の配備において、ありがたい同盟国です。

ミサイル防衛は私たちにとって非常に重要です。北朝鮮の核の可能性についての懸念は、最近の6カ国協議での進展にも関わらず、しつこく残っています。

確かに、キム・ジョンイル (Kim Jong-il) は、核兵器プログラムを中止するといったかもしれません。しかし、彼が所有している兵器、または8基から10基以上の核ミサイルを作るのに使える、プルトニウムを放棄するかは不透明です。パキスタンがそうしたように、核保有国として、国際的な認識を得ようと、それらを手放さないかもしれません。

日本を標的にしたノドンミサイル、1998年、北朝鮮政府が日本の上空を越えて撃ったテポドン-1ミサイル、そして去年の、7基の中距離そして長距離ミサイルの実験と組み合わせ、この延々と続く脅威に対して、私たちの同盟国、そしてその地域のために、多層的なミサイル防衛を構築することは重要であります。

私たちの同盟は対応しています。私たちはペトリオット能力改善3型（Patriot Advanced Capability: PAC-3）ミサイルを嘉手納空軍基地に配備しています。そしてスタンダードミサイル（Standard Missile）防空システムをイージス艦に搭載しています。4隻のイージス駆逐艦は、私たちが共同開発した、次世代のスタンダードミサイルに順応するために、改修されています。そして、Xバンドレーダーが車力空軍基地で運用されています。

ヘリテージ財団や他が、本格的な研究で実証した通り、このような防衛は、安定性を向上させます。ならずもの国家やテロリストにとっては、核を備えた弾道ミサイルは、もしそれが発射後すぐに撃墜されてしまうなら（もしくはこのことについて言えば、いつでも）、ただ単純に、そのお金をかけるだけの価値が無いかもしれません。

私たちの協調した取り組みにも関わらず、私たちのリスクを承知で無視している、この同盟に対する現実的な緊張があります。日本にとって最も重要なのは、北朝鮮による日本人の民間人の拉致という、今日の日本の最も重要な外交政策の懸念事項のひとつを無視し、米国が北朝鮮をテロ支援国家のリストからははずすかもしれないことです。

私は、福田首相が、今月ワシントンを訪れた際に、この問題を提起するだろうと見込んでいます。そしてブッシュ大統領はそれを上手く、真剣に扱うことでしょう。米国にとっての懸念は、諜報そして軍事情報の共有に関する協定が署名された現在、福田氏が米国との関係をどのように扱うのかについて、増している不透明性です。

それは私を第2のポイントに導きます。それは新しい政府が日本の外交政策をどこに導くのかにおいて、米国人は透明性を必要としているということです。

福田首相が、私たちの同盟を支持して力強く現れたとき、私は勇気づけられました。しかし彼が、小泉氏または安倍氏の日本の自衛隊のより広範な使用を支持するという考え方を共有しているのか、または憲法改正のために前進するのか、もしくは前内閣がしたように、米国、インド、そしてオーストラリアと“広域アジア”パートナーシップの形成を支持するのか、未だ明確ではありません。

福田氏は、北朝鮮に関しては、“柔軟性”が欲しいと言ってきました。そしてこれは結構です。米国人はそれがどういう意味か知りたいのです。加えて、“できるだけ早く”給油任務が続行できるように、新しい法律を通過させると、先週彼が誓約しましたが、国会において、野党はその考えに、反対のままのようにみえます。よって、地球規模のテロとの戦いにおいて、日本がどのように同盟国をサポートし続けるのかは不透明です。

日本の将来の方向性についても同様に、その他いくつかの不確実性と未回答の問題があります。福田氏は国内において、政治的な問題に直面しています。そしてもちろん、海外には、中国のアジアにおける強大な勢力としての、将来的な台頭についての問題、さらに、北朝鮮をめぐる内部抗争に起因する、韓国の同盟国としての煮え切らない態度の問題もあります。

福田氏は、米国が満足できるように、これら全ての懸念に対して対処する道を見つけるかもしれません。しかし透明性がかぎなのです。米国のアジアにおけるプレゼンスに反対の人々は、私たちの関係にヒビを感じたとき、より力強くなります。私は、私たち全員が、米国と日本の同盟維持へのコミットメントだけでなく、その強化へのコミットメントを再確認する率直な宣言を歓迎するだろうと思います。

私の第3のポイントは、その地域における安全保障において、より広範な役割を担おうという日本の願望についての懸念です。私は、特に、北朝鮮の核実験と、中国による、大

気圏外の人工衛星を破壊するための、大陸間弾道ミサイル（ICBM）の使用以来、この新しい方向性を歓迎しています。私たちはまた、NATO や世界中の平和維持活動への日本のサポートを歓迎します。

しかし全体的に、防衛費を増やすための対策を講じない限り、例え憲法が改正されたとしても、アジアでの安全保障のためにさらに多くのことをする能力は、制限されてしまうでしょう。

防衛省は、従来型の軍事力だけでなく、ミサイル防衛も同様に構築するために、追加資金が必要となるでしょう。日本は、現時点で、5年間毎年やってきた全体の防衛費の削減を止めるべきです。そして、いつもの GDP の 1 パーセントの防衛費以上に投資すべきです。

ゲーツ国防長官がここにいたときにこれらのポイントを強調してくれたことを願います。彼がテロリズムに対する地球規模の戦争とミサイル防衛のために日本がやった全てのことに対して、米国の感謝の念を伝えてくれたことを願います。そして彼が、アジアにおいてより広範な安全保障の役割を担おうという日本の意思に対する強力なサポートを表明したことを願います。それが私たちにとって最大の利益の全てです。

ありがとうございました。